令和7年度　自己評価結果報告書

学校名	成田市立橋賀台小学校

1　学校教育目標

心豊かにたくましく生きる子どもの育成　～夢に向かって、日々成長～

2　本年度の重点化された具体的な目標

1　わかった・できたが実感できる授業 2　基礎基本の習得 3　読書に親しむ児童の育成 4　生徒指導 ・教育相談 の充実
5　道徳教育・人権教育の充実 6　基礎的な体力・運動能力の向上 7　保健指導、食育指導の充実

3　自己評価結果　　職員　保護者　児童

分野・領域	評価項目	評価の指標	取組状況	改善の方策
教育目標	教育目標は明確であり、その達成に向けて校務分掌が適切に機能して、学校運営の責任体制が整備されている。 お子さんは、楽しく学校に通っている。 学校は、楽しいですか。	・職員の100%が「とてもあてはまる」「だいたいあてはまる」と回答している。 ・保護者の95%が「とてもあてはまる」「だいたいあてはまる」と回答している。 ・児童の95%が「とてもあてはまる」「だいたいあてはまる」と回答している。	A	・学校で起こったことはその都度、指導・対応している。教師間での情報共有や指導の一本化、家庭との連携を継続して行う。
組織・運営	職員会議等が適切に機能・運営されている。 校内における研修の実施体制が整備され、授業研究が継続的に実施されている。 学校は、保護者や地域の方々の声をもとに工夫・改善しながら、よりよい教育活動をめざしているように感じる。	・職員の100%が「とてもあてはまる」「だいたいあてはまる」と回答している。 ・保護者の94%が「とてもあてはまる」「だいたいあてはまる」と回答しており、学校組織や体制について肯定的にとらえている。	A	・会議では全職員が改善点や協議事項について積極的に取り組む。 ・若手育成の校内研修の充実を図るために、授業参観を行う。
	危機管理体制を全職員が理解し、迅速・適切に行動できる準備が整っている。 学校は、安全指導を充実させ、事故防止に務めているように感じる。	・職員の100%が「とてもあてはまる」「だいたいあてはまる」と回答している。 ・保護者の96%が「とてもあてはまる」「だいたいあてはまる」と回答しており、学校の安全指導や事故防止の取組について肯定的な評価である。	A	・危機管理マニュアルにそった安全点検の実施と定期的な見直しを行う。 ・シェイクアウトや不審者対応避難訓練等に取り組み、職員の研修も積み重ねていく。
	学校いじめ防止基本方針を全職員が理解し、いじめの未然防止に向けた校内体制が機能している。 学校は、いじめのない学校をめざし、児童の様子をよく観察したり、情報を集めたりして、対応しているように感じる。 学校の先生は、いじめやいじわるを絶対にゆるさない。	・職員の100%が「とてもあてはまる」「だいたいあてはまる」と回答している。 ・保護者の92%が「とてもあてはまる」「だいたいあてはまる」と回答しており、昨年度より4ポイント程、高い評価となっている。 ・児童の89%が「とてもあてはまる」「だいたいあてはまる」と回答している。	B	・生徒指導情報の発信と共有に努め、アンケートなどからいじめや問題行動に早期発見できる体制を継続していく。 ・教育相談を定期的に行い、情報共有を図ることで、児童理解や日頃の指導や支援に生かす。 ・SOSの出し方教育を推進する。 ・人権教育を充実させる。
教育課程 学習指導	指導と評価の一体化を図り、個に応じた指導の充実に努めている。 TTや少人数指導教員との連携を図り、基礎学力の向上に努めている。 学校は、学力向上をめざし、わかりやすく授業を工夫しているように感じる。 お子さんは、学年に応じた学習内容を確実に身に付けている。 学校の先生は、授業中に一人ひとりていねいに教えてくれる。	・職員の100%が「とてもあてはまる」「だいたいあてはまる」と回答している。 ・わかりやすい授業の工夫では、保護者の92%が「とてもあてはまる」「だいたいあてはまる」と回答しており、肯定的な評価となっている。 ・学習内容の習得では、保護者の80%が「とてもあてはまる」「だいたいあてはまる」と回答している。 ・児童の96%が「とてもあてはまる」「だいたいあてはまる」と回答しており、肯定的な評価となっている。	B	・学校サポート教員や特別支援教育支援員を学級に配置し、取り出しや入り込みによる少人数指導の充実を図り、学力向上をめざす。 ・「文章を正しく読み取り、適切な言葉で自分の意見を表現できる児童」の育成のために、指導方法や教材の工夫、授業参観の実施等で指導力向上をめざす。 ・学習内容の習得のために、基礎基本の徹底、個別指導の充実、家庭学習の習慣化などを行っていく。
	道徳教育や人権教育に積極的に取り組み、思いやりのある児童を育てている。 学校は、思いやりのある児童を育てるために、心の教育（道徳教育・人権教育など）を充実させているように感じる。	・職員の100%が「とてもあてはまる」「だいたいあてはまる」と回答している。 ・保護者の93%が「とてもあてはまる」「だいたいあてはまる」と回答しており、取組をプラスに評価している。	A	・「おうちDE道徳」の取組と、道徳通信による家庭への発信を行う。 ・授業参観での道徳の授業展開や人権集会の実施など、児童の人権意識を高める取組を継続していく。

教育課程 学習指導	食に関する教育を実施したり、体育科を中心に児童の運動の機会を増やしたりして、体力向上を図っている。 学校は、体力の向上をめざし、保健指導や運動の機会を充実させているように感じる。	・職員の100%が「とてもあてはまる」「だいたいあてはまる」と回答している。 ・保護者の93%が「とてもあてはまる」「だいたいあてはまる」と回答しており、肯定的な評価である。	A	・「いきいきちばっ子元気アッププラン」に継続して取り組む。 ・栄養教諭による食育授業を継続していく。 ・体育行事について、反省を生かした改善を行い、児童の体力向上に努める。
生徒指導 教育相談	生徒指導、教育相談のバランスのとれた指導体制が整備されている。 情報の共有、指導の共通理解を図り、指導が統一されている。 児童一人一人のよさを認め、子どもの声を聴きながら伸ばす指導ができている。 学校は、一人一人の児童のよいところを認めて、伸ばすような指導をしているように感じる。 学校は、児童の悩みを解決しようと、よく話を聞いたり、相談にのったりしているように感じる。 学校には困ったときに相談できる先生がいる。	・職員の100%が「とてもあてはまる」「だいたいあてはまる」と回答している。 ・保護者の92%が「とてもあてはまる」「だいたいあてはまる」と回答しており、児童への指導について肯定的な評価である。 ・保護者の91%が「とてもあてはまる」「だいたいあてはまる」と回答しており、教育相談について肯定的な評価である。 ・児童の94%が「とてもあてはまる」「だいたいあてはまる」と回答しており、相談できる教師がいると回答している。	A	・ブロック会議や打合せにおいて情報共有し、全職員で児童の指導にあたる体制づくりを継続していく。 ・定期的なアンケート調査を行い、児童の抱える困難に素早く対応する。 ・児童への教育相談窓口の周知、徹底を継続して行う。 ・課題を抱える児童には、家庭や関係機関と連携を密にし、ケース会議等を開催し、解決につなげていく。
特別支援	特別支援教育について研修を深めるとともに校内委員会を効率的に運営し、全職員が共通理解・共通行動ができている。 学校は、保護者からの「合理的配慮に対する申し出」や要望をもとに、一人一人に合わせた対応や指導を工夫しているように感じる。	・職員の100%が「とてもあてはまる」「だいたいあてはまる」と回答している。 ・保護者の96%が「とてもあてはまる」「だいたいあてはまる」と回答しており、合理的配慮に対する対応について、プラスの評価をしている。	A	・特別支援教育全体計画、個別の支援計画、指導計画、合理的配慮についての研修の充実を図る。 ・定期的に特別支援教育推進委員会を開催し、個別指導等の要望に対応する。 ・「合理的配慮の申出」について、保護者に目的や意義を周知する。
地域との 協働	学校はPTAや地域団体等と連携し、保護者や地域住民の意見や要望を取り入れた学校運営を図っている。 地域の人材や自然・施設等の教育資源を有効に活用し、体験学習・課題解決学習を推進している。 保護者や地域住民への情報提供を十分に行い、本校教育活動への理解が深まっている。 学校は、保護者への連絡（お便り、連絡帳、電話、メールでの情報伝達など）を丁寧に行っているように感じる。 学校は、ボランティアの人たちにお世話になっている。	・職員の100%が「とてもあてはまる」「だいたいあてはまる」と回答している。 ・保護者の94%が「とてもあてはまる」「だいたいあてはまる」と回答しており、情報伝達の仕方や教育活動の工夫改善において、肯定的な評価である。 ・児童の95%が「とてもあてはまる」「だいたいあてはまる」と回答しており、地域に支えられていると感じている。	A	・個人情報の取扱いについて、事前に保護者へ承諾をとり、学校便りやPTA広報、メール等の掲載について、今後も配慮していく。 ・成田市学校支援地域本部事業のコーディネーターと連携し、人材発掘と効果的な活用を行う。

4　自己評価の結果の分析

・学校教育目標を職員が理解し、協力体制のもとで、教育活動を展開することができた。
・職員研修や授業参観の充実により、「わかった・できた」が実感できる授業づくりや若手の育成に努めることができた。
・学校サポート教員や特別支援教育支援員を学級に配置し、取り出しや入り込みによる少人数指導の充実を図り、学力向上に努めることができた。
・今後は「文章を正しく読み取り、適切な言葉で自分の意見を表現できる児童」の育成のために、指導方法や教材の工夫、授業研究の実施等で指導力向上を目指していく。また学習内容の定着のために、基礎基本の徹底、個別指導の充実、家庭学習の習慣化などに取り組む。
・危機管理マニュアルにそった、安全点検の実施と定期的な見直しを行うことができた。また故障や修繕等があれば、学校施設課に連絡して修繕を依頼したり、校内で素早く故障箇所を直すことができた。今年度は職員研修で、不審者対応について、さすまたの使い方や防犯対策について学ぶことができたので、来年度も継続して行っていく。
・生徒指導では、日頃の観察や声かけ、学校アンケートや教育相談等による児童理解や問題把握を行い、深刻な問題はブロック会議やケース会議等で迅速に対応策を練り、早期解決や継続的な対応につなげることができた。今後はSOSの出し方教育を推進し、より話しやすい雰囲気づくりに取り組んでいく。
・個人情報への取扱いから、事前に承諾をとり、学校便りやPTA広報、メールに載せる等の配慮を今後も行っていく。
・成田市学校支援地域本部事業のコーディネーターと連携し、人材発掘と効果的な活用を行う。
・不祥事根絶の取組は、モラールアップ研修を通じて職員に浸透している。今後も継続して取り組んでいく。

令和7年度　学校関係者評価結果報告書

学校名	成田市立橋賀台小学校

1　学校教育目標

心豊かにたくましく生きる子どもの育成　～夢に向かって、日々成長～

学校関係者評価委員
学校運営協議会 委員　6名 （内：アンケート回答者6名）

2　本年度の重点化された具体的な目標

1 わかった・できたが実感できる授業　2 基礎基本の習得　3 読書に親しむ児童の育成　4 生徒指導・教育相談 の充実
5 道徳教育・人権教育の充実　6 基礎的な体力・運動能力の向上　7 保健指導、食育指導の充実

3　評価結果　　□職員　□保護者　□児童

分野・領域	評価項目	評価の指標	取組状況	改善の方策	学校運営協議会 評価	
					自己評価の適切さ	改善に向けた取組の適切さ
教育目標	教育目標は明確であり、その達成に向けて校務分掌が適切に機能して、学校運営の責任体制が整備されている。 お子さんは、楽しく学校に通っている。 学校は、楽しいですか。	・職員の100%が「とてもあてはまる」「だいたいあてはまる」と回答している。 ・保護者の95%が「とてもあてはまる」「だいたいあてはまる」と回答している。 ・児童の95%が「とてもあてはまる」「だいたいあてはまる」と回答。	A	・学校で起こったことはその都度、指導・対応している。教師間での情報共有や指導の一本化、家庭との連携を継続して行う。	A	A
学校関係者による意見等	・良く努力していると思います。					
組織・運営	職員会議等が適切に機能・運営されている。 校内における研修の実施体制が整備され、授業研究が継続的に実施されている。 学校は、保護者や地域の方々の声をもとに工夫・改善しながら、よりよい教育活動をめざしているように感じる。	・職員の100%が「とてもあてはまる」「だいたいあてはまる」と回答している。 ・保護者の94%が「とてもあてはまる」「だいたいあてはまる」と回答しており、学校組織や体制について肯定的にとらえている。	A	・会議では全職員が改善点や協議事項について積極的に取り組む。 ・若手育成の校内研修の充実を図るために、授業参観を行う。	A	A
	危機管理体制を全職員が理解し、迅速・適切に行動できる準備が整っている。 学校は、安全指導を充実させ、事故防止に務めているように感じる。	・職員の100%が「とてもあてはまる」「だいたいあてはまる」と回答している。 ・保護者の96%が「とてもあてはまる」「だいたいあてはまる」と回答しており学校の安全指導や事故防止の取組に肯定的な評価。	A	・危機管理マニュアルにそった安全点検の実施と定期的な見直しを行う。 ・シェイクアウトや不審者対応避難訓練等に取り組み、職員の研修も積み重ねていく。	A	A
	学校いじめ防止基本方針を全職員が理解し、いじめの未然防止に向けた校内体制が機能している。 学校は、いじめのない学校をめざし、児童の様子をよく観察したり、情報を集めたりして、対応しているように感じる。 学校の先生は、いじめやいじわるを絶対にゆるさない。	・職員の100%が「とてもあてはまる」「だいたいあてはまる」と回答している。 ・保護者の92%が「とてもあてはまる」「だいたいあてはまる」と回答しており、昨年度より4ポイント程、高い評価となっている。 ・児童の89%が「とてもあてはまる」「だいたいあてはまる」と回答している。	B	・生徒指導情報の発信と共有に努め、アンケートなどからいじめや問題行動に早期発見できる体制を継続していく。 ・教育相談を定期的に行い、情報共有を図ることで、児童理解や日頃の指導や支援に生かす。 ・SOSの出し方教育を推進する。 ・人権教育を充実させる。	B	A
学校関係者による意見等	・これ以上は望めないと考えます。 ・いじめを見たり、感じたりしたら、守ってあげられる気持ちをもてるようになる児童が増えるとよいです。 ・話しやすい、相談しやすい環境づくりの充実と、コミュニケーションがとりやすい関係づくりを引き続きを望みます。 ・いじめに関する設問において、約11%の児童が「あてはまらない」と回答しています。約1割ですが、この中には不安や悩みを抱えている児童の声が含まれている可能性があり、丁寧に見守っていくことが大切だと思います。					
教育課程 学習指導	指導と評価の一体化を図り、個に応じた指導の充実に努めている。 TTや少人数指導教員との連携を図り、基礎学力の向上に努めている。 学校は、学力向上をめざし、わかりやすく授業を工夫しているように感じる。 お子さんは、学年に応じた学習内容を確実に身に付けている。 学校の先生は、授業中に一人ひとりていねいに教えてくれる。	・職員の100%が「とてもあてはまる」「だいたいあてはまる」と回答している。 ・わかりやすい授業の工夫では、保護者の92%が「とてもあてはまる」「だいたいあてはまる」と回答しており、肯定的な評価となっている。 ・学習内容の習得では、保護者の80%が「とてもあてはまる」「だいたいあてはまる」と回答している。 ・児童の96%が「とてもあてはまる」「だいたいあてはまる」と回答しており、肯定的な評価である。	B	・学校サポート教員や特別支援教育支援員を学級に配置し、取り出しや入り込みによる少人数指導の充実を図り、学力向上をめざす。 ・「文章を正しく読み取り、適切な言葉で自分の意見を表現できる児童」の育成のために、指導方法や教材の工夫、授業参観の実施等で指導力向上をめざす。 ・学習内容の習得のために、基礎基本の徹底、個別指導の充実、家庭学習の習慣化を図る。	B	A
	道徳教育や人権教育に積極的に取り組み、思いやりのある児童を育てている。 学校は、思いやりのある児童を育てるために、心の教育（道徳教育・人権教育など）を充実させているように感じる。	・職員の100%が「とてもあてはまる」「だいたいあてはまる」と回答している。 ・保護者の93%が「とてもあてはまる」「だいたいあてはまる」と回答しており、取組をプラスに評価している。	A	・「おうちDE道徳」の取組と、道徳通信による家庭への発信を行う。 ・授業参観での道徳の授業展開や人権集会の実施など、児童の人権意識を高める取組を継続していく。	A	A
	食に関する教育を実施したり、体育科を中心に児童の運動の機会を増やしたりして、体力向上を図っている。 学校は、体力の向上をめざし、保健指導や運動の機会を充実させているように感じる。	・職員の100%が「とてもあてはまる」「だいたいあてはまる」と回答している。 ・保護者の93%が「とてもあてはまる」「だいたいあてはまる」と回答しており、肯定的な評価である。	A	・「いきいきちばっ子元気アッププラン」に継続して取り組む。 ・栄養教諭による食育授業を継続していく。 ・体育行事について、反省を生かした改善を行い、児童の体力向上に努める。	A	A
学校関係者による意見等	・これ以上は望めないと思います。 ・学習内容について、保護者と児童の回答にやや乖離が見られました。保護者側には期待や希望が反映されている面もあるかと思います。日々工夫を重ねておられる現場の先生方のご苦労に思いを寄せつつ、相互理解を深めていくことが大切だと感じました。					

生徒指導 教育相談	生徒指導、教育相談のバランスのとれた指導体制が整備されている。 情報の共有、指導の共通理解を図り、指導が統一されている。 児童一人一人のよさを認め、子どもの声を聴きながら伸ばす指導ができている。 学校は、一人一人の児童のよいところを認めて、伸ばすような指導をしているように感じる。 学校は、児童の悩みを解決しようと、よく話を聞いたり、相談にのったりしているように感じる。 学校には困ったときに相談できる先生がいる。	・職員の100%が「とてもあてはまる」「だいたいあてはまる」と回答している。 ・保護者の92%が「とてもあてはまる」「だいたいあてはまる」と回答しており、児童への指導について肯定的な評価である。 ・保護者の91%が「とてもあてはまる」「だいたいあてはまる」と回答しており、教育相談について肯定的な評価である。 ・児童の94%が「とてもあてはまる」「だいたいあてはまる」と回答しており、相談できる教師がいると回答している。	A	・ブロック会議や打合せにおいて情報共有し、全職員で児童の指導にあたる体制づくりを継続していく。 ・定期的なアンケート調査を行い、児童の抱える困難に素早く対応する。 ・児童への教育相談窓口の周知、徹底を継続して行う。 ・課題を抱える児童には、家庭や関係機関と連携を密にし、ケース会議等を開催し、解決につなげていく。	A	A
学校関係者による意見等	・しっかりと対応しています。					
特別支援	特別支援教育について研修を深めるとともに校内委員会を効率的に運営し、全職員が共通理解・共通行動ができている。 学校は、保護者からの「合理的配慮に対する申し出」や要望をもとに、一人一人に合わせた対応や指導を工夫しているように感じる。	・職員の100%が「とてもあてはまる」「だいたいあてはまる」と回答している。 ・保護者の96%が「とてもあてはまる」「だいたいあてはまる」と回答しており、合理的配慮に対する対応について、プラスの評価をしている。	A	・特別支援教育全体計画、個別の支援計画、指導計画、合理的配慮について研修を充実する。 ・定期的に特別支援教育推進委員会を開催し、個別指導等の要望に対応する。 ・「合理的配慮の申出」について、保護者に目的や意義を引き続き周知する。	A	A
学校関係者による意見等	・特に問題はありません。 ・個々に合わせた対応をこれからも継続してほしいと思います。					
地域との 協働	学校はPTAや地域団体等と連携し、保護者や地域住民の意見や要望を取り入れた学校運営を図っている。 地域の人材や自然・施設等の教育資源を有効に活用し、体験学習・課題解決学習を推進している。 保護者や地域住民への情報提供を十分に行い、本校教育活動への理解が深まっている。 学校は、保護者への連絡（お便り、連絡帳、電話、メールでの情報伝達など）を丁寧に行っているように感じる。 学校は、ボランティアの人たちにお世話になっている。	・職員の100%が「とてもあてはまる」「だいたいあてはまる」と回答している。 ・保護者の94%が「とてもあてはまる」「だいたいあてはまる」と回答しており、情報伝達の仕方や教育活動の工夫改善において、肯定的な評価である。 ・児童の95%が「とてもあてはまる」「だいたいあてはまる」と回答しており、地域に支えられていると感じている。	A	・個人情報の取扱いについて、事前に保護者へ承諾をとり、学校便りやPTA広報、メール等の掲載について、今後も配慮していく。 ・成田市学校支援地域本部事業のコーディネーターと連携し、人材発掘と効果的な活用を行う。	A	A
学校関係者による意見等	・個人情報の取扱いについては、判断基準が定まらず、なかなか良い答えが出ません。この点は、苦慮しています。 ・協力できる事は尽力致します。					

4　次期の重点目標と改善のための方策

（1）わかった・できたが実感できる授業
・指導方法や教材の工夫、ICT機器の効果的な活用、導入や発問の仕方などを研鑽する。
・指導と評価の一体化を図り、目標やねらいを明確にした授業づくりを行う。
・授業でペアやグループでの話し合いを意図的に行うことで、考えを深められるようにする。
（2）基礎基本の習得
・児童の実態や保護者のニーズに応じた、個別指導の充実を継続して行う。
・保護者の協力による家庭学習の習慣化を図る。
・音読や詩の暗唱に継続して取り組む。
（3）読書に親しむ児童の育成
・朝読書の習慣を徹底する。
・学校図書館司書と連携し、読み聞かせや並行読書、読書イベント等を実施する。
（4）生徒指導 ・教育相談の充実
・あいさつを毎日進んで行えるよう、委員会や学級での働きかけを継続して行う。
・校内のきまりや学習規律を共通理解し、全職員で同じ指導を行う。
（5）道徳教育・人権教育の充実
・授業だけでなく、学校生活全体を通して、命の尊さや善悪の判断、規範意識を高められるようにする。
・「おうちDE道徳」の取組と、道徳通信による家庭への発信を行う。
・人権集会を継続して実施し、人権意識を高める。
（6）基礎的な体力・運動能力の向上
・年間を通じて、体力向上の取組を行う。（外遊び・チャレンジマラソン・縄跳び検定等）
・縦割り班活動を通して、楽しみながら体力向上に努める。
・準備運動の工夫をし、正課体育の充実につなげる。
（7）保健指導・食育指導の充実
・基本的生活習慣の定着を図る。（うがいや手洗いの励行、歯磨きの習慣化、ハンカチやティッシュの所持等）
・養護教諭や保護者と連携した保健指導の充実を図る。
・外部講師を招聘し、食育指導や健康に関する教育を継続して取り組む。